

# 簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号  ~  〕(配点 40)

A 個人企業である長野商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、商品売買取引の記帳方法として、分記法を採用している。

次の  ・  にもとづいて、17ページから18ページの問い(問1~6)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて万円である。なお、( )は各自で考えること。

平成×4年12月31日における繰越試算表の金額

現金 ￥250 当座預金 ￥260 売掛金 ￥100 商品 ￥40  
買掛金 ￥100 借入金 ￥0 資本金 ￥500

平成×5年1月中のすべての取引

3日：岐阜商店へ商品￥90を注文し、内金として￥30の小切手を振り出して支払った。

6日：岐阜商店から商品￥90を仕入れ、内金￥30を差し引き、残額は掛けとした。

18日：富山商店に商品￥100(原価￥80)を売り渡し、代金は同店振り出しの小切手で受け取った。

20日：金沢商店から商品陳列ケース￥50を買い入れ、代金は翌月末に支払うこととした。

問 1 資料 1 の空欄 ア にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料 2 の 3 日と 6 日の取引について、取引要素の結合関係を、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

3 日の取引：

6 日の取引：

・  の解答群

(借方要素)

(貸方要素)

- |         |       |       |
|---------|-------|-------|
| ① 資産の増加 | ————— | 資本の増加 |
| ② 資産の増加 | ————— | 負債の増加 |
| ③ 資産の増加 | ————— | 資産の減少 |
| ④ 資産の増加 | ————— | 資産の減少 |
| ⑤ 費用の発生 | ————— | 収益の発生 |
|         | ————— | 資産の減少 |
|         | ————— | 負債の増加 |
|         | ————— | 資産の減少 |
|         | ————— | 負債の増加 |

## 簿記・会計

問 3 資料 2 の 18 日と 20 日の取引について、次の記述(1)・(2)の空欄 **エ**・**オ** にあてはまる勘定科目を、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

- (1) 18 日の取引を仕訳した場合、借方の勘定科目は **エ** である。  
(2) 20 日の取引を仕訳した場合、貸方の勘定科目は **オ** である。

**エ**・**オ** の解答群

① 当座預金	② 現金	③ 売掛金	④ 商品
⑤ 備品	⑥ 買掛金	⑦ 未払金	⑧ 商品売買益

問 4 買掛金に関する取引について、仕入先別の買掛金の増減や残高を知るために、仕入先の氏名や商店名などを勘定科目とする **カ** が設けられることがある。空欄 **カ** にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

**カ** の解答群

① 集合勘定	② 人名勘定	③ 統制勘定	④ 評価勘定
--------	--------	--------	--------

問 5 1 月末の商品勘定の残高は ¥ **キ** 0 であり、買掛金勘定の残高は ¥ 1 **ク** 0 である。空欄 **キ**・**ク** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 6 長野商店の商品売買取引を 3 分法で記帳した場合、1 月末の仕入勘定の残高は ¥ **ケ** 0 となる。また、1 月末の売上勘定の残高は ¥ ( ) となり、収益の金額は、分記法と比べて ¥ **コ** 0 大きくなる。空欄 **ケ**・**コ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

## 簿記・会計

B 個人企業である三重商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、取引銀行に当座預金口座を開設しており、¥500を借越限度額とする当座借越契約を結んでいる。

資料1は、平成×5年12月中のすべての当座取引を示しており、資料2は、資料1の取引について当座預金勘定および当座借越勘定を用いた場合の記録、資料3は、資料1の取引について当座勘定のみを用いた場合の記録である。

これらの資料にもとづいて、22ページの問い(問1・問2)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、( )は各自で考えること。

資料1 平成×5年12月中のすべての当座取引

3日：石川商店に商品¥サシ0を売り渡し、代金のうち¥120は石川商店振り出しの約束手形で受け取った。残額は同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。なお、当店負担の発送運賃¥20を、小切手を振り出して支払った。

5日：愛知商店から商品¥800を仕入れ、代金のうち¥500は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとした。

8日：出張中の従業員から、¥105が当座預金口座に振り込まれたが、その内容は不明である。

15日：返済期日が到来したため、滋賀商店からの借入金¥250を、小切手を振り出して支払った。利息¥8は現金で支払った。

25日：12月末に受け取る予定であった事務用機の売却代金¥スセ0を、先方振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。

29日：大津商店に対する売掛金¥( )を同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。

## 資料2 当座預金勘定および当座借越勘定

## 当座預金

12/1	前月繰越	295	12/3	ソ	20
3	売上	130	5	仕入	夕チツ
8	テ	10	15	借入金	10
29	売掛金	80	31	次期繰越	( )
		515			515

(注) 太字は赤字記入を意味する。

## 当座借越

12/8	テ	95	12/5	仕入	95
25	未収金	( )	15	借入金	トナ0
29	売掛金	40			( )
		( )			( )

## 資料3 当座勘定

## 当座

12/1	前月繰越	295	12/3	ソ	20
3	売上	130	5	仕入	500
8	テ	105	15	借入金	250
25	未収金	200	31	次期繰越	( )
29	売掛金	ニ又0			( )
		( )			( )

(注) 太字は赤字記入を意味する。

## 簿記・会計

問 1 資料 1 ~ 資料 3 の空欄 サ ~ セ , タ ~ ツ ,  
ト ~ ヌ にあてはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料 2 の空欄 ソ , テ にあてはまる勘定科目を, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ソ , テ の解答群

①	売掛金	②	立替金	③	発送費	④	前受金
⑤	仮受金	⑥	預り金	⑦	通信費	⑧	交通費

## 簿記・会計

**第2問** 個人企業の福島商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、商品売買業を営んでおり、5伝票制(商品売買取引については、全額をいったん掛け取引として処理する)を採用している。

次の資料1～資料5にもとづいて、27ページの問い(問1～4)に答えよ。ただし、平成×5年4月1日のすべての取引は資料1・資料2に示されており、それ以外に取引はない。なお、金額の単位はすべて千円である。また、( )は各自で考えること。[解答記号 ア～ハ](配点 30)

資料1 平成×5年4月1日に行われた取引の一部とその伝票(略式)

取引1：宮城商店に商品¥375を売り渡し、代金のうち¥160は同店振り出し、栃木商店あて(引き受け済み)の為替手形で受け取り、残額は掛けとした。

<u>売上伝票</u> No. 501 売掛金 375 (宮城商店)	<u>振替伝票(借方)</u> No. 301 受取手形 160	<u>振替伝票(貸方)</u> No. 301 売掛金 160 (宮城商店)
--	-------------------------------------	--

取引2：かねて買掛金のある青森商店から、同店振り出し、秋田商店受け取り、当店あての為替手形¥120を呈示され、当店はこれを引き受けた。

<u>振替伝票(借方)</u> No. 302 買掛金 120 (青森商店)	<u>振替伝票(貸方)</u> No. 302 支払手形 120
--	-------------------------------------

取引3：従業員の出張にさいし、旅費の概算額として¥40を現金で渡した。

<u>出金伝票</u> No. 201 ア 40
-----------------------------

資料2 平成×5年4月1日に起票した資料1 以外のすべての伝票(略式)

入金伝票 No.101 売掛金 145 (岩手商店)	出金伝票 No.202 買掛金 78 (山形商店)	振替伝票(借方) No.303 当座預金 ( )	振替伝票(貸方) No.303 受取手形 ( )
仕入伝票 No.401 買掛金 192 (青森商店)	売上伝票 No.502 売掛金 ( ) (宮城商店戻り)	振替伝票(借方) No.304 支払手形 180	振替伝票(貸方) No.304 当座預金 180
仕入伝票 No.402 買掛金 280 (山形商店)	売上伝票 No.503 売掛金 360 (イ)	振替伝票(借方) No.305 未着商品 ( )	振替伝票(貸方) No.305 前払金 ( )
仕入伝票 No.403 買掛金 20 (山形商店値引)		振替伝票(借方) No.306 未着商品 140	振替伝票(貸方) No.306 買掛金 140 (山形商店)

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料3 平成×5年4月1日における仕訳集計表

仕 訳 集 計 表  
平成×5年4月1日

借方	元丁	勘定科目	元丁	貸方
1 <b>㊦</b>	〳	現金	〳	( )
( )		当座預金		180
( )	省	受取手形	省	<b>㊧</b>
<b>㊨</b>		売掛金		( )
<b>㊩</b> 0		未着商品		
		前払金		30
40		<b>ア</b>		
180	略	支払手形	略	( )
218		買掛金		<b>㊪</b>
75		売上		( )
( )	〵	仕入	〵	<b>㊫</b>
2,345				2,345



簿記・会計

資料4 平成×5年4月1日における受取手形記入帳と支払手形記入帳の一部

受取手形記入帳

平成 ×5年	摘要	金額	手形 種類	手形 番号	支払人	振出人 または 裏書人	振出日	満期日	支払 場所	てん末		
										月	日	摘要
3 4	3 1	売り上げ 150 ( )	約手 為手	(省略)	宮城商店 ツ	宮城商店 宮城商店	(省略)	(省略)	(省略)	4	1	入金

支払手形記入帳

平成 ×5年	摘要	金額	手形 種類	手形 番号	テ	( )	振出日	満期日	支払 場所	てん末		
										月	日	摘要
3 4	5 1	仕入れ 120 買掛金支払い	約手 為手	(省略)	山形商店 ( )	当店 ナ	(省略)	(省略)	(省略)	4	1	支払い

資料5 平成×5年4月1日における売掛金元帳

売掛金元帳

宮城商店

平成 ×5年	摘要	仕 丁	借方	貸方	借 または 貸	残高
4	1	前月繰越	✓	80	借	80
	"	売上傳票	501	375	"	455
	"	振替伝票	301	( )	"	( )
	"	( )	502	㊦	"	220

岩手商店

平成 ×5年	摘要	仕 丁	借方	貸方	借 または 貸	残高
4	1	前月繰越	✓	73	借	73
	"	売上傳票	503	360	"	433
	"	入金伝票	101	( )	"	㊦

問 1 資料 1 の空欄 ア にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つ選べ。

ア の解答群

① 前受金 ② 仮受金 ③ 前払金 ④ 仮払金

問 2 資料 1, 資料 5 にもとづいて、資料 2, 資料 4 の空欄 イ, ツ, ナ にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

イ, ツ, ナ の解答群

① 福島商店	② 宮城商店	③ 秋田商店
④ 山形商店	⑤ 栃木商店	⑥ 当 店
⑦ 岩手商店	⑧ 青森商店	

問 3 資料 3 ~ 資料 5 の空欄 ウ ~ チ, ト, ニ ~ ハ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 4 資料 4 の空欄 テ にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

テ の解答群

① 振出人 ② 受取人 ③ 支払人 ④ 裏書人

簿記・会計

第3問 神戸商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)は、商品売買業を営んでいる。

次の資料1～資料5にもとづいて、32ページの問い(問1・問2)に答えよ。ただし、金額の単位は、別途指示している箇所を除き、すべて万円である。なお、( )は各自で考えること。〔解答記号 **ア** ~ **ノ** 〕(配点 30)

資料1 平成×6年3月24日における残高試算表

残高試算表  
平成×6年3月24日

借方	元 丁	勘定科目	貸方
250	省	現金	
530		当座預金	
124		受取手形	
116		売掛金	
		貸倒引当金	5
200		有価証券	
100		繰越商品	
14		未着商品	
100		貸付金	
2		<b>ア</b>	
10		仮払法人税等	
800		備品減価償却累計額	180
640		土地	
		支払手形	50
	買掛金	117	
	社債	776	
	資本	1,000	
	資本準備金	150	
	利益準備金	80	
	繰越利益剰余金	360	
	売上	1,880	
	受取利息	4	
1,200	略	仕入	
( )		給料	
120		支払家賃	
<b>イ</b>	)	社債利息	
4,602			4,602

資料2 平成×6年3月25日から31日までのすべての期中取引

25日：かねて京都商店から受け取っていた貨物引換証¥14を、東京商店に¥20で売り渡した。代金は、東京商店が振り出し、神奈川商店の引き受けを得た為替手形で受け取った。

27日：京都商店に注文していた商品¥12につき、取引銀行から荷為替手形の呈示を受けたので、これを引き受け、貨物引換証を受け取った。なお、手形金額は、注文のさいに支払った内金¥2を差し引いた¥10である。

29日：27日に受け取った貨物引換証と引き換えに商品を引き取った。なお、引取運賃¥3は現金で支払った。

31日：社債(額面総額¥800, 年利率4%, 利払い年2回(3月末日と9月末日))について、利息¥( )を、小切手を振り出して支払った。

資料3 平成×6年3月31日に判明した未記帳事項および記帳の誤り

- (1) 平成×6年1月末に土地¥40を¥35で売却し、代金は平成×6年4月1日に受け取ることにしていたが、未記帳であったので、記帳する。
- (2) 平成×6年2月末に大阪商会に対する買掛金¥5を、小切手を振り出して支払ったが、誤って貸借を反対に記帳していたので、訂正する。

## 簿記・会計

### 資料4 決算整理事項

- (1) 期末商品棚卸高は、¥( )である。
- (2) 受取手形と売掛金の期末残高に対して、5%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (3) 備品は、すべて平成×2年4月1日に取得したものである。定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は12年)で減価償却を行う。
- (4) 有価証券は、売買目的で保有する株式である。決算日の時価は、¥226である。
- (5) 社債について、額面金額と払込金額との差額のうち、当期配分額を計上する。なお、社債は、すべて平成×4年4月1日に、額面総額¥800、払込金額@¥96(単位:円)、償還期限4年の条件で発行したものであり、額面金額と払込金額との差額は、毎決算時に償却原価法(定額法)により処理している。
- (6) 家賃は、毎年7月1日に1年分を前払いしている。なお、当期に家賃の見直しは行われていない。
- (7) 当期の法人税、住民税および事業税の合計額¥25を計上する。なお、中間申告で法人税等¥( )を納付している。

資料5 平成×6年3月31日における損益勘定と繰越試算表

		損 益			
3/31	仕 入	1, <b>カキク</b>	3/31	売 上	( )
"	給 料	380	"	受 取 利 息	4
"	貸 倒 償 却	( )	"	<b>ウ</b>	( )
"	減 価 償 却 費	<b>ケコ</b>	/		
"	支 払 家 賃	<b>サシ</b>			
"	社 債 利 息	( )			
"	<b>イ</b>	5			
"	法 人 税 等	( )			
"	繰越利益剰余金	<b>スセ</b>			
		1,930	1,930		

繰越試算表

平成×6年3月31日

借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
247	(	現 金	
504		当 座 預 金	
( )		受 取 手 形 金	
116		売 掛 金	
( )	省	貸 倒 引 当 金	<b>ソタ</b>
95		有 価 証 券 品	
100		繰 越 商 品 金	
35		( )	
( )		前 払 家 賃 品	
800		備 品 減 価 償 却 累 計 額	( )
600		土 地	
		支 払 手 形 金	<b>チツ</b>
	略	買 掛 金	<b>テトナ</b>
		未 払 法 人 税 等	<b>ニヌ</b>
		社 債 金	7 <b>ネノ</b>
		資 本 金	1,000
		資 本 準 備 金	150
		利 益 準 備 金	80
		繰 越 利 益 剰 余 金	442
2,891	)		2,891

## 簿記・会計

問 1 資料 1, 資料 5 の空欄 ア ~ ウ にあてはまる勘定科目を,  
次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア ~ ウ の解答群

① 仮払金	④ 未収金	⑦ 立替金
② 前払金	⑤ 固定資産売却益	⑧ 固定資産売却損
③ 支払地代	⑥ 固定資産税	⑨ 有価証券売却益
④ 有価証券売却損	⑩ 有価証券評価益	⑪ 有価証券評価損

問 2 資料 1, 資料 5 の空欄 エ ~ ノ にあてはまる数字を, 解答  
用紙の解答欄にマークせよ。